

Try & Challenge

越谷の YES, WE CAN.

越谷の現状と統一地方選

統一地方選まで4か月を切りました。私たち越谷に住む市民の生活に直結するリーダー選びは重要な選挙です。現在の越谷議会が機能不全に陥っている現実をご存じでしょうか。32名の議員が各々市民の声を代弁するとして、いろいろな政策を掲げて議会を構成しています。しかし、市民と交わした政策がどれくらい実現しているのでしょうか。議会主催の市政報告会は今年開催されませんでした。

また常任委員会や議員運営委員会のライブ中継や議会改革の実現を遅らせたり、先送りしたりする一部の勢力が多数派を形成し、議会の機能化を阻害している現実があります。

唯一、桜井地区4名の超党派議員だけが市政報告会を定例的に実施し、市民との対話に臨んでいます。桜井地区の投票率はいつも上位を記録しています。

この停滞した越谷の中で「埼玉政経セミナー」というグループがローカルマニフェストを策定し、情報発信しています。さらに年1回、このマニフェストの進捗が点検・検証され、結果を参加市民の方々から検証を受けるという活動を展開しています。

この越谷の活動が今年度（第9回）マニフェスト大賞の議会部門で優秀賞を受賞しました。超党派

議員が統一政策を掲げることは全国でも珍しく、市民と議員が責任と役割を分担し、対等な立場で討議する“場”をつくり選挙戦を戦い、当選後はマニフェストの推進と検証を市民主導で行い、マニフェストサイクルを進め、実現した事が受賞の対象になりました。

今、4年前のマニフェストをさらにリニューアルして、参加した超党派議員の統一政策とするため作業中です。各々の議員が勝手気ままに掲げる選挙公約は、32分の1でしかなくそもそも実現を約束できない政策となつていきます。統一政策は特に子育て世代や将来に投資するお金の使い方を、議員と市民双方で実現していこうという活動であり、主権者である市民がその決定権を持つとしています。こんな活動が越谷にも芽生えて4年が経ちました。いろいろな抵抗を受けながら、議会を機能させ、市民主導の挑戦を続けていきます。特権意識を持った一握みの抵抗勢力に向かつてさらなる挑戦をしてまいります。市民のみならず！まずは投票行動を起こそうではありませんか。

（大竹在住 西川孝一）



大袋幼稚園環境教育に参加して

11月7日大袋幼稚園で不思議発見授業を選択した園児約25名を対象にして、風力発電設備の模型を作って発電を体感する環境教育の場に参加した。身近に幼児と接する機会がないので、どうなるのかという不安があったが、最初に紙芝居の形で、電気を作ることが出来るものはどれか（太陽光、風力、雷、地熱、バイオマス（家畜の糞）、というクイズが出されて園児が興味を示したことで、さあ一緒にやろうという気持ちが入り込んできた。羽根車・発電機・ポールの部品を組み立てて、風力発電の模型を作り上げた。うちわで人工の風を作り、羽根車を回すと発電機に電気がつくようになるのだが、弱い風ではなかなか電気がつかない。園児同士がうちわを取り合っ、自分こそは電気をつけようと頑張るのだが、がむしゃらにやるだけでは羽根車が横を向いて風が有効に伝わらない。すると園児の中に、羽根車が横を向かないように軸を抑える子が出て来るようになり、皆が力を合わせて必死になって電気作りを行った。園児たちの、電気は自分でも作れるという体験を通じて、自然の力の大きさを考えたり、電気作りと環境のことを考えるきっかけになればと思う。そして、この体験を友達や家族に話すことを通じて、市民がエネルギーと環境のことを考える一助になればと思う。

（年金生活者 岡村宣夫）



「チーム白川」の会員を募集しています。

問い合わせ先：事務局 岡村 090-3342-3064

子宮頸がんワクチンについて



9月議会に、全国で深刻な副反応被害が拡大している子宮頸がんワクチンについて、越谷市として接種者全員に対する健康被害追跡調査の実施と相談窓口の設置を求める請願を提出し、私を含め3人の母親たちが参考人として委員会に出席しました。越谷市でも実際に重い副反応に苦しんでいる方がおられ、子育て中の親にとって副反応被害は心配な問題です。越谷市は国に先駆けて公費助成を行い、市民におすすめていた経緯があることから、副反応への不安に対しても市が積極的に実態を調査・公表し親たちの不安を払拭していただきたいと訴えましたが、結果は賛成少数で不採択でした。質疑の中で、『国が行う予定の再調査で足りる』といった言葉はありましたが、反対討論はなく、あっけない終わり方はどこか自分たちが軽視されたようでとても残念でした。市民の思いに正面から向き合い、寄り添って一緒に解決策を話し合っていけるような議会になってほしいと思います。

(越谷在住 山田ゆう子)

選挙実行部隊（ポスター貼り）同窓会に参加して

そうか、もう三年半経つんですね。ボスの助手席に乗ってのポスター貼り。選挙作業初めての私には、貼り位置決定電話の着信待ちワクワク感も初経験ならば、よその候補の支援者が諸々道具を用意しておられるのを見て、よし、次は小脚立とタツカー（建築用のホッチキスみたいなものです）を絶対準備するぞ、なんて張り切りしました。

但し、白川さんに言わせると、タツカー留めは雨に弱くて、面紙の平留めにはかなわない由。ただ作業は手早く、多人数を請け負った時には楽そうなんだけど。叱られるのを覚悟で今度のための用意しとこ。

ま、道具は何とかなるとして、あの頃は走れたし飛べたしぶら下がれた。ところが今や走れない、つまづく、悪くすると転ぶ。何のことはない。向こう半年は政治運動ならぬ体力調整運動期間になりそうだ。

(千間台西 佐治)



政経セミナー・新しいしくみ分科会に参加して

埼玉県越谷市に移住して30年あまりになります。この間、住民税は納めてい

るものの市が何をやってくれているのか、市議会ではどんなことを決めていくのか、あるいは何が問題になっているのか、全く関心を持たずに来ました。それが、ひよんなことから越谷市の超党派の市会議員と市民が運営している「政経セミナー」に出すようになりました。毎回、若い人たちや私のような定年後の人たち50人程度が参加して、市役所幹部や専門家の話を聞いたあと、グループに分かれて討論。市庁舎の建て替え問題、高齢者をどうサポートするか、公共施設の老朽化にどう備えるか、統一ローカルマニフェストの検証などについて勉強したり議論したりして来ました。回を重ねるうちに、越谷市も多分にもれず高齢化や借金と言った様々な課題を抱えていること、また市議会も旧態依然の体質から新たな脱皮を迫られていることなどが徐々に分かって来ました。国と同じく地方自治体も、いわば時代の転換点に直面しようとしているわけです。



現在、「政経セミナー」は来年4月の統一地方選挙に向けて新規の「ローカルマニフェスト」を作ろうと議論しています。私は「新しいしくみ」部会に入って議論していますが、こうした議論の中で地方自治体には、地方議会運営の基本原則を定めた議会基本条例や、自治体運営の基本原則を定めた自治基本条例があるという点についても初めて知りました。「地方自治は民主主義の学校」などとも言われますが、参加して見るといろいろ知らないことが多いのに驚きます。これまでの事を考えれば性急になることは全くないけれど、それなりの参加の仕方と関心を持って行きたいと考えています。

(越谷市在住 軍司達男)

マニフェスト大賞を通じた統一地方選への取組

市民と超党派の議員による7年にも及び取組みが評価され、埼玉政経セミナーでマニフェスト大賞第9回の優秀賞（議会部門）を受賞しました。特に「市民が参加し、責任をもつ地域への挑戦」というスローガンのもと、徹底した市民参加でマニフェスト・サイクルを着実に実現し「主権者が市民である」と明言した取り組みは他にはなかったからだと感じています。

現在は2015年の統一地方選挙に向けて、まちづくりマニフェストを10回以上の会議を開催して作成しています。市民として責任を担う事の大変さはありますが、達成感、連帯感、高揚感がさまざま、まさに「市民自治」です。国政がブレようが、市長や議員が変わろうが「私達の思い（マニフェスト）」は変わりません。この取り組みを地域から波及させていく為、作成後も一貫して実現に向けて取り組みたいと思います。

(埼玉政経セミナー運営委員 岡田)

